

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 質の高い乳幼児教育・保育事業の充実(STEM教育の実践)

①外部環境

コロナ5類へ移行をうけ、本来の地域の子育て支援を行う幼保連携型認定こども園としての本来の役割を果たすため、地域との連携をとりながら乳幼児教育・保育事業の充実と子育て支援事業の充実を図る必要があります。

②重点課題に対する取り組み

・環境(人的環境・物的環境)を通して子どもの発達を保障する保育(見守る保育)の理論と実践を学ぶ研修においては、今年度のテーマを「かんがえる」とし、自然の事象に対しての子どもの気づきに焦点をあて、保育に落とし込み、その気づきを「見える化」することで、そこから活動をひろげることによって子どもたちの育ってほしい10の姿を意識し、保育に取り組むことができました。

・地域の子育て支援事業については、年間計画を立て、地域によびかけましたが、なかなか多くの参加を募ることはできず、地域への周知の方法が課題となりました。

(2) 発達障害、情緒障害のある児童に対する支援体制の強化

①外部環境

発達障害の特性を持つ子どもの増加により、一人ひとりに応じた細やかな支援が必要になりますが、園内だけでは保護者を含めた対応が難しいことが多く専門家や専門機関とのより深い連携が必要です。

②重点課題に対する取り組み

・谷山病院のケースワーカーを通じ、支援の必要な子どもや保護者について書類をやり取りすることによって、専門家の助言をもらいながら、保護者対応に活かしました。今後は谷山病院のケース検討会にも可能な限り参加し、内容を深めたいと思います。

・言語聴覚士の定期的な訪問による園児の行動観察を行い、その後担当保育教諭とのカンファレンス時に子どもの特性や具体的な対応方法について助言を受け、保育の実践に取り入れることができました。

(3) 職員の働きやすい環境づくりの推進

①外部環境

・国をあげての保育士不足問題の中、手当等の充実だけではなく、働く環境を工夫し離職率を下げることが保育士不足解消の課題の一つとされています。

②重点課題に対する取り組み

・ICT化を取り入れ2年目となったことで、書類作成の業務負担減や保護者対応時間の削減等、あらゆる面での時間短縮ができ、その分保育者同士の保育の振り返り時間の確保や交代で休憩時間を取る工夫ができるようになりました。

・午後からの非常勤保育教諭を採用や夏期休校期間を利用した学生アルバイトを採用することで、

夕方人手不足の保育業務の補充ができ、超過勤務削減につながりました。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数) 定員 123 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	7人	12人	13人	11人	13人	6人	62人
女児	6人	11人	9人	14人	8人	9人	57人
計	13人	23人	22人	25人	21人	15人	119人
	(13人)	(19人)	(25人)	(23人)	(16人)	(28人)	(124人)
割合	10.9%	19.3%	18.5%	21.0%	17.6%	12.6%	100.0%

()は前年度実績

※0歳児については、育児休暇明けの入所が月毎に増え一年を通して変動があった。

(他の年齢は年間を通じほぼ一定数)

(0歳児月別在籍数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	5人	5人	7人	7人	8人	7人	7人	7人	7人	8人	8人	8人	84人
女児	1人	1人	5人	5人	6人	6人	7人	7人	7人	7人	7人	8人	67人
計	6人	6人	12人	12人	14人	13人	14人	14人	14人	15人	15人	16人	151人
	(7人)	(9人)	(12人)	(12人)	(13人)	(13人)	(14人)	(14人)	(16人)	(16人)	(16人)	(16人)	(158人)

()は前年度実績

(年間延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
R4年度	158人	227人	299人	276人	192人	336人	1,488人
R5年度	151人	279人	260人	300人	254人	182人	1,426人
前年比	-7人	+52人	-39人	+24人	+62人	-154人	-62人
	96%	123%	87%	108%	132%	54%	96%

(2) 保育事業

	保育計画	実践	反省・課題
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生活リズムを大切にしながら生理的欲求を満たし、愛着形成の元、安心して過ごせるようにする。 衛生的で温かい環境の元で、健康に過ごせるようにし、情緒の安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1歳児と一緒に生活する中で、同年齢同士や1歳児との関わりなど子ども同士の関係性を持てるようにした。 子どもたちの発達を保障する環境を意識して整えた。特に自然を意識し、自然と触れ合える機会を多く持った。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの欲求を満たしながらゆったりとした生活リズムを心掛け、その中で生活の場に応じて、1歳児との関わりを取り入れることで子ども同士の刺激が大きく、見て真似ながら成長に関わることができた。

1 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育者との関わりや自ら活動したくなるような環境の中で過ごし、基本的な生活習慣を獲得しようとする意欲を持つ。 ・戸外遊びを多く取り入れ、自然との関わりの中で興味・関心を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が多いクラスだったため、一人ひとりが十分な活動ができるようにできるだけ戸外での活動を多く取り入れた。子どもたちの歩行が安定してくると、積極的に園外保育(散歩)も取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりの発達を理解し、意欲を高めるための活動を工夫した。特に自然を意識して触れ合える活動を多く持ったことで、探求心の基盤となる意欲の育ちが見られた。
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・自由に活動できる安全な環境の中で友だちと関わって楽しく遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身に付くような援助や自分でやってみようとする意欲を高める為、興味のある遊びを工夫する環境づくりを行った。 ・自然物への関わりのお機会も多く持つことで、子どもたちの個性へとつながっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での活動や園外活動(散歩)、大きい組との交流を多く持つことで、子どもたちの興味関心の幅も広がり、また、年長者の真似をしながら自分からやってみようとする姿が多く見られた。
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな体験を通し、いろいろな物事に興味や関心を持ち、自主性を育てる。 ・保育者や友だちとの関わりの中で、安心感を持って遊びや活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけるとともに当番活動に参加し、意欲を持てるようにするための保育の工夫を行った。 ・体を動かし、自然と触れることを楽しめるような戸外あそびや園外保育を多く実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進級時には戸惑った姿も見られたが、年上の友だちとペアになって当番活動をしたり、各ゾーンでいろいろな教えてもらったりしながら、大きい組での遊びを体験することで生活の仕方も学んでいくことができた。
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いだけでなく、相手の気持ちを考えたり感じたりしながら人間関係を深め、集団としての行動ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な当番活動に取り組みながら年上の子から教えてもらったり、年下の子に対する興味関心が高まりお世話したりすることの喜びを感じていた。 ・力を合わせることを楽しむ遊びや活動を多く経験した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児と組みながら当番活動をすることで、真似ることから身につけられるように工夫した。 ・友だち間でのトラブルも時々見られたので、友だちの思いに気づき、自分で考えられるような関わりを工夫した。
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの中で、社会生活に必要な態度(社会性)や基本的な生活習慣を身に付け、自主性を育てる。 ・自分の思いを言葉で表現したり、友だちの思いを認めたりしてその思いを大切にしながら生活や遊びに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に備えた基本的な生活習慣を身につけ自立できるような援助を行い、子どもたちが主体的に生活・遊びができるような環境設定を行った。 ・人との関りを大切にすることから、01歳児クラスへの手伝いには多く参加し、食事の世話や玩具の消毒等や手洗いの補助等の活動も体験し、貢献する喜びにつながるような工夫をしていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の計画や実施等様々な活動を自分たちの力で組み立て実施する経験が自信につながっていった。 ・年下の子のお世話をすることで年長児としての自覚も芽生え、慈しみの気持ちも育ち、自分たちの自信にもつながっていった。

(3) 給食事業

主な計画	実践	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・献立の立案 ・給食検討会の実施 ・嗜好調査の実施 ・食育の年間計画立案 ・アレルギー除去食の提供 ・共食の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産池消を取り入れ、地域の特産を生かして料理や食材の旬を生かして料理を味わえるような献立を工夫した。 ・幼児食の他に離乳食の献立を成長に応じて作成した。(初期・中期・後期) ・毎月1回栄養士・保育教諭・管理職で会議を開き、喫食状況や食への子どもの意識、食の場の環境について話し合った。 ・園での食育への取り組みが家庭でどのように反映されているか家庭での食生活の調査をし、家庭での様子を知ることにより、食事や健康面での情報を提供し、献立に反映させた。 ・年間計画に伴い野菜作りや収穫を行ったり、調理前の旬の食材に触れたり食べたりすることで、季節感を味わった。 ・クッキングも多く取り入れ、作って食べる楽しさも味わえた。 ・アレルギーを持つ子どもへ代替メニューの提供と配膳トレーの分別を行った。 ・5歳児が、01歳児と月2回一緒に食事をする事により、食事の介助をしたり交流を持ったりする共食を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼や嚙む力などの発達を考え、素材や調理法を工夫した献立を取り入れることができていた。 ・全クラスの子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善を図った。 ・給食や食育への取り組みに対しての感想・意見等もたくさんいただき、励みにもなった。 ・子どもが取り組む野菜の種まきや収穫の様子などを月毎の食育体験として掲示したり、園だよりやホームページ・インスタグラムで知らせたりして、園の食育の認知を図った。 ・離乳食・アレルギー食の子どもの把握、メニューについて保育教諭と栄養士・調理員で周知徹底し連携をとることで、誤飲誤食を防止できた。 ・5歳児が0歳児のお世話をしながら食事をする共食は、食事前後の関わりの時間の交流もでき、未満児にとっても年長児にとってもいい体験になった。

(4) 地域交流事業

	事業名	実践	反省・課題
5月 7月 9月	世代間交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・愛と結の街の方々との交流 ・コロナは5類になったが、感染症の影響を受け、出来る範囲での交流となった。 ・七夕飾りの交換 ・デイサービスでの交流 ・歌・紙芝居の読み聞かせの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・両施設の状況の連携を取りながら直接の交流を試してみた。お互いの顔をみながら交流できることを工夫し活動したことで、お年寄りの笑顔をたくさんみることができ、子どもたちもとても喜んでいました。
年間	育児支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・園での子育て支援として、年間を通して5回の計画をし、ベビーマッサージや園庭解放、人形劇、「地域の遊びの達人との遊び」を取り入れ、在園児とともに楽しめるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやインスタグラム・町内会への回覧板など、参加募集のお知らせを出していたが、中々参加者の増加にはつながらなかった。参加者には喜んで頂けたので、広報の仕方を工夫しながら、地域の子育て支援につなげていきたい。
8月	異年齢児交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで中止していた、園行事への小学生の参加を再開した。運動会での小学生種目や、1年生になった卒園児の一日保育士など、成長した子どもたちに会えその成長ぶりを実感できたことが嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類になっての小学生の園行事での参加はすすめていけたが、時々遊びにきてくれる小学生や中学生の保育中の関わり、お迎えに同行する小学生の待機場所等、まだまだこれから検討していかなければならないことも多い。

(5) 幼児保育相談事業

日 時	内 容	対応・反省
R5 9月27日(水) R5 11月30日(木) R6 1月16日(火) R6 3月14日(木)	◎(言語聴覚士 西野先生訪問相談) ・午前10時～12時園児の行動観察をして頂き、13時～14時に各クラス別に担任保育教諭を交えて、カンファレンスを行う。 1回につき、4名の園児について年間4回実施した。 ◎谷山病院とのケース検討会 支援の必要な子ども・親に対して、谷山病院の専門職の方より書類を通してアドバイスを頂く。 (年間3名について、1～2ヶ月おきにケース検討用紙のやりとり)	・言語聴覚士における発達が気になる子どもの観察を通して、子どもの特性や対応について具体的に教えて頂くことができた。わかりやすい助言の為、カンファレンスを求める保育教諭も多く、来年度の園内研修の講師としても講話をお願いすることとした。 ・専門的な立場でさまざまなアドバイスを頂きありがたかった。R6年度はメールのやりとりだけでなく、谷山病院のケース検討会議に可能な時は出席して内容を深めていきたい。
年間		

(6) 実習受け入れ

学校名・人数	実習期間	日数	目 的
鹿児島中央看護専門学校 24名	R5/6/5～9/21	4日間	小児看護学実習
鹿児島女子短期大学 2年 1名	R4/8/16～8/28	11日間	保育実習
鹿児島純心女子短期大学 2年 1名	R5/8/21～9/1	11日間	保育実習
鹿児島支援特別支援学校 3年 1名	R5/10/23～10/27 R5/12/4～12/8	10日間	産業現場実習
鹿児島医療技術専門学校 4名	R5/12/11～12/14	4日間	小児看護学実習
鹿児島キャリアデザイン専門学校 1年 6名	R5/7/18	1日間	保育観察実習
鹿児島純心女子短期大学 1年 1名	R6/2/19～3/1	10日間	インターシップ (栄養士)

3. 苦情・相談

計 画	内 容	対応・反省
・保護者からの相談・苦情を広く受け付けるために、日々の連絡帳や苦情箱から苦情をひろいあげ、HP上に公開する。 ・相談苦情解決責任者・受付担当者・第三者委員を決定し、公表する。 ・保護者には入所時また保護者懇談会時に「相談苦情申出窓口」についての紹介を行う。	登園時の職員の対応について	対応した職員や状況の確認を取った後、副園長が保護者と話をし、不安や心配をかけたしまったことを謝罪した上で、改善していくことを伝えた。職員の意識もなれ合いになっていることもあったので、真摯に受け止め、対応についても話し合った。

4. 防災訓練

計 画	実 施 内 容	反省・課題
◎毎月、防災・避難訓練を行う ・毎月消火訓練も行う ・年2回脇田分遣隊立ち合いの訓練を実施 ◎月3回安全点検（園舎・園庭）を行う ◎災害用品の購入 ◎保護者へ避難所の提示	◎毎月、防災・避難訓練を行う ・火災避難訓練（年5回）（脇田分遣隊2回）（第二避難所まで避難1回） ・地震避難訓練（年4回） ・津波避難訓練（第三避難所まで避難） ・台風避難訓練 ・不審者避難訓練（市安心安全課の指導派遣有り） ◎月3回園内の安全点検（保育教諭2名1組で実施） ・安全点検のマニュアルに沿って ◎防災・災害用品購入 ・避難用食料・水保存倉庫 ・避難用カート3台 ・非常時食品 ◎重要事項説明書・園しおりに記載・入園説明会にて説明	・脇田分遣隊立ち合いの避難訓練を実施し、アドバイスをもらう。 ・地震時には防災頭巾を使用した訓練を実施 ・昨年度からの課題であった避難用滑り台での訓練は実施できなかった。（予定時の天候不良のため） ・避難時に食料・水をすぐ取りに行けるように、玄関横に倉庫を設置した。 ・毎月、看護師によるAEDの点検を実施。地域の人たちにもAEDを常設している場所として知らせていく。

5. 会議及び研修

(1) 研修計画（園内）

主な計画	実 践	反省・課題
◎園内研修	・一円対話・クラスミーティング、全体研修を交代に月ごとに1回ずつ繰り返し、いろんな面から保育の質を高める研修をすすめる。（すべての研修においてFT5人が担当） ・全体職員研修を4月・12月・2月に実施	・一円対話での聞く姿勢や共感力を、チーム内や園全体でのコミュニケーションにつながるように、クラスミーティングでも話しやすい環境づくりをする必要がある。 ・FTの5人が研修係として3時間の職員全体の研修を組み立てる。全員が主体的に参加し、チームでの連携も深め、楽しめるような研修が実施できた。また係で振り返りも行い次年度の課題に繋げることができた。
◎見守る保育研修	○藤森先生講演会（4月） ○環境セミナー参加（7月・9月）	・本園が実施している「見守る保育」創始者である藤森平司先生の講話を4月は原点にもどるため、同じ保育を勉強している7ヶ園が集まり講演会を実施。その後、東京の新宿せいがこども園の見学も含むセミナーに2名ずつ参加して、見学したものを園に持ち帰り、園内の環境づくりに活かした。

(2) 会議

会議名	回 数	延べ参加人数	会議内容	参加職種
職員会議	12回	120名	翌月の行事・研修・共通理解	園長・副園長・保育教諭・栄養士・主幹・事務
危機管理会議	12回	72名	毎月の事故状況・発生防止策	園長・副園長・主幹・保育教諭
給食検討会	12回	72名	喫食状況・献立、食育検討	園長・副園長・栄養士・保育教諭
担当者会議	不定期	80名	行事等の準備・計画・実施	各担当者
管理者会議	6回	24名	理念の確認・園内状況の把握	園長・副園長・主幹2名
リーダー会議	6回	48名	理念の確認・チームの連携 各チームの報告・相談	主幹2名・チームリーダー

6. 年間行事報告

毎月の行事	実践	反省・課題
誕生会	・月により行事と抱き合わせてそれぞれの担当がリズム室と保育室で分かれて実施した。 (毎月保育教諭2名が担当)	・大人数の密をさけるため、未満児と以上児に分かれ、実施する。集団が苦手な子は保育教諭がそばにいて個別に対応し無理なく進められた。(時々、全体で実施)
避難訓練	・月により地震や火事、不審者など災害の種類を変え、実施時間も様々な時間帯に設定し、また時間を職員にも伝えず実施し対応力を訓練する機会を多く持つようにした。	・第二、第三避難所までの避難も実施した。R6.3月に小原町・谷山病院・愛と結いの街担当者とは防災についての話し合いを持てたことがよかった。(地域との連携作りの強化)
設備点検	・設備点検マニュアルに従い、毎月3回担当保育教諭2名が点検を行った。	・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡し、改善を図った。修繕箇所が年々増えているので計画的な対応が必要である。
一日保育士	・全クラスで保護者各1名を限定に再開した。(10時～12時30分頃までクラスで親子一緒にクラスで活動)	・どのクラスの保護者も再開を楽しみにしていたようで、沢山の参加があり、園で親子で過ごす時間をととても喜ばれていた。子どもの成長の気づきもいただき、保育者と話す機会も持つことができた。

月	主な計画	実践	反省・課題
4月	進級式	・4月1日に在園児の進級式を行い、4月の誕生会では新入園児を紹介し、入園を祝った。	・3月より新体制で保育を行っているが、4月1日に改めて行うことで、新しい担任も認識し、進級した実感がわいたようだった。
5月	交通安全教室 保護者懇談会	・ヤマト運輸の方に来ていただいて交通安全教室を実施した。 ・保護者を園に集めての懇談会は中止。携帯アプリにて動画を配信し園についての紹介を実施した。	・業者の方や大きなぬいぐるみが珍しく、子どもたちも興味津々で楽しく交通安全教室が実施できた。 ・昨年度から取り入れたICT機能を使い、クラスの保育の特色を伝えることができた。
6月	健康診断 歯科検診 運動会	・コロナの状況をみながら時期を少し遅らせたが予定通り実施できた。 ・2歳児以上保護者2名までの制限をつけて午前中で終わるように実施した。年長児が様々な係を担い、子ども主体の運動会を実施した。	・密を避け、風通しの良いところで実施した。 ・2歳児から参加種目が終わり次第に親子で降園となったため、密になることもなく、競技を楽しむことができた。
7月	プール遊び開始 七夕まつり	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。(7月～8月)	・安全に気をつけることを第一にし、保育教諭で連携を取りながら実施することができた。 ・監視用の高いところから見下ろせる椅子を購入し、監視体制を整えた。
8月	夏まつり	・年長児を中心に夏祭りの計画を立てて準備をし、全園児を招待するミニ夏まつりを保育中に実施した。	・年長児が考えたゲームについて年中児・年少児も保育活動中に一緒に準備することで意欲をもって活動することができた。
9月	十五夜	・誕生会と合わせて十五夜の行事についてわかりやすく伝えた後、つなひきを実施し、日本の文化に触れることができた。	・おひさま農園で収穫した里芋もお供えで飾り、十五夜の意味を各クラスで伝えた後、怪我がないように綱引きを楽しんだ。
10月	秋の親子遠足 ハロウィン大会	・平川動物公園に現地集合、昼食なしの現地解散としたが、動物をみながらのスタンプラリーを実施、親子・友だち同士で楽しむ姿が見られた。	・家族によっては昼食を持参し、解散後も楽しむ方も多かったが、園行事として有意義な時間を持てた。

1 1 月	発表会 おもいほり 焼き芋大会	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の子どもたちが無理をせず、発達に応じた表現する姿を保護者の前で堂々と披露することができた。 ・おひさま農園で育てていたサツマイモの芋ほりを実施し、2週間後に園庭で焼き芋大会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスごとに時間をずらし、2日間に分けて実施した。0～1歳児においては普段の姿を見て欲しいという思いで、保護者と一緒に体験型の発表会となったが、子どもの成長を直に感じられて保護者も嬉しそうだった。 ・おひさま農園のお芋を収穫後、園庭で薪や落ち葉を使った焼き芋大会を行った。下準備から焼いている時の見守り、食べるまでを体験することで、自然に歌を歌いだすなどわくわくした表情がたくさん見られた。
1 2 月	笹貫商店街会 買い物体験	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が商店街の買い物体験を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は自分たちでお金のやり取りをする体験後、自分で購入した鉛筆・消しゴムを使って就学への準備活動につなげることが出来た。
1 月	七草	<ul style="list-style-type: none"> ・春の七草、由来を話した上で給食の七草粥をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・七草の由来を丁寧に伝えていた。
2 月	節分の行事	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が準備・計画し、小さい組は保育室で、3歳児以上はリズム室で節分の豆まきを楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児がどのような節分にするか話し合い、計画を立て、準備を進めていった。子どもたちで計画・役割分担を話し合い実施した企画であり、泣いた子どもを慰める役などもいて、子どもたちの成長を感じた。
3 月	ひなまつりの 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム室に飾ってある雛人形を囲んで実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭りへの興味を深める手立てが出来ていた。
	お楽しみ遠足	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの高見公園まで2歳児から歩いて行く。1歳児はお散歩車に乗って参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下見をして危険箇所も周知しており、年長児の考えたゲームを実施しながら連携もスムーズにいき、子どもたちは存分に楽しむことができた。
	電車遠足	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児のみ電車を利用して水族館へ遠足に行った。帰りは貸し切り電車でお弁当を食べるという特別な体験も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行きは公共の交通機関での過ごし方や水族館という公共の場でもルールを守って楽しむことができ、帰りの貸し切り電車では特別感を大いに味わうことができていた。
	入園説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟組は別日に設定したため、一度に9組だったがゆったりとリズム室で実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご協力保育により多くの職員が参加できたため、一度に分かれて実施することができた。
	お別れ会	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのび組が会場の飾りを作ったり、いきいき組がフルーチェを作ってもてなしたりするなど、大きい組の子どもがお別れ会を盛り上げてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい組の職員・子どもたちが役割分担をし、例年とは違う形でのお別れ会となったが、どの子も嬉しそうなお別れ会が印象的であった。
卒園式	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の準備や子どもたちの作品に加えて、保護者の方々も園や職員への思いを言葉や写真に込めた掲示物を会場前に飾ってくださり、感謝の気持ちを伝えあう卒園式となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが主役という自信に年長児の表情は輝いており、涙あり笑顔ありの心のこもった卒園式を実施できた。保護者の方の準備も大変だと思ったが、まとめ役の方が連携をとりながら卒園式を彩ってくださった。 	

7. 設備計画

月 日	工事名 ・ 品名	内 容
R5. 4月 10日	パッソ（車）	平成13年から使用していた公用車の老朽化により、公用車の買い替え
R5. 4月 5日	2階トイレ床改修工事	2階園児用トイレのタイル床の排水が悪く水がたまる状態であったため、フローリング仕様の床に張替
R5. 4月 19日	クマリフト（小荷物専用昇降機）	老朽化により中の装置の交換
R5. 5月 10日	2階保育室シャワーパン設置	345歳児用園児トイレにシャワー用のシャワーパン新設
R5. 5月 10日	2歳児保育室マルチシンク	2歳児保育室に水道がなかったため、保育室に新設

8. 職員管理

(1) 入職者 正規職員 4名（保育教諭2名 栄養士 1名 事務職1名）
非常勤職員 1名（保育教諭1名）

(2) 退職者 正規職員 2名（保育教諭2名）
常勤職員 1名（保育教諭1名）
非常勤職員 1名（保育教諭1名）

(3) 産休・育休職員 正規職員2名（保育教諭1名・事務職員1名）

(4) 職員体制（令和6年3月31日現在）

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園 長	1名		1		
副園長	1名	1			
主幹保育教諭	2名	2			
保育教諭	24名	13	4	7	うち1名育児休暇中
看護師	1名	1			
栄養士	2名	2			
調理員	2名		1	1	
事務員	2名	1		1	うち1名育児休暇中
施設係	1名			1	
計	36名	20	6	10	